

平成25年6月

[配布先：全組合員]

## 市場情報

日時 平成25年6月7日（金） 12時～14時15分  
場所 大阪鉄鋼会館  
出席数 酒匂委員長他 19名(最終頁参照)  
経過

### 1. 酒匂委員長挨拶

#### 2Q以降の母材価格の動向に注目

経済全体の雰囲気は少し上向きになってきたかなと思っていた矢先、株価や為替の乱高下が収まらず、不安定な足取りが続いている。良くなったり悪くなったりの繰り返しは常とはいえ、相変わらず心配のタネが尽きない。こうした中、母材価格は店売りについては年初から先行的に値上げしてきているが、紐付き価格の交渉はどうなっているのか。その交渉経過が全く聞こえてこない。原料価格も下がっており、7～9月の厚板価格がどうなるか。我々シャー業にとってはこの成り行きが最大の関心事である。

鉄骨関連需要は、物流センターや圏央道関係など物件は増加しているが、今のところコラム使用がほとんどで、シャーの切板仕事に繋がっていない。橋梁はこの2年間で着工を予定している案件が多く、これから期待できそうだ。今後のファブの受注動向が注目される。需要全体を俯瞰すれば、良い材料はあるのだが、シャー仕事になかなか結びつかないので皆イライラしているのが実情ではないか。東京地区の建築案件もようやく基礎部の穴を掘り始めたようで、地上部を手掛けるHグレードファブも12月以降かなり忙しくなりそうだ。

建機関連は、3月頃に比べるとマダラながらやや改善しているが、排ガス規制や消費税導入前の駆け込み的需要の側面が強く、それ以降の反動減が危惧される。

悪いところばかり見るときがないので、先行きに少しでも期待感を抱きながら、この苦しい局面を何とか乗り越えていきましょう。

## 2. 各地区の需要動向

### 北海道

#### ファブは夏場頃までフル操業

先月（5月）、北海道付近では低気圧の停滞で極めて強い寒気が流れ込み、季節外れの記録的な積雪を記録した。この寒気流の影響で、道内における桜の開花は平年に比べ大幅に遅れ、札幌市では5月13日まで先送りされ、1953年の観測開始以来'80年5月14日に次ぐ2番目に遅い記録となった。

また、稚内市は26日に根室市は27日と、平年より12日遅く観測以来最も遅く、今年の桜前線は、やっと日本最北端と最東端に達した。

異常低温や日照不足といった曇雨天続きの天候により雪解けが大幅に遅れ、全道各地で田畑の耕起や農作物の苗の育成・播種など春の農作業に深刻な打撃を与えている。

国内の経済情勢は、米国の景気回復とアベノミクスの成長戦略に対する期待感から、円安と株高が急速に進み確実に復調へ向けた歩みを踏み出している。消費者の購買意欲や企業家の経営心理も徐々に改善されつつあり、ようやく明るい展望が見通せるようになってきた。

それに対し北海道経済を取り巻く環境については、いまだ厳しい状況にまったく変わらないと言わざるを得ない。海外からの観光客の増加や震災復旧工事が本格化。さらに、公共投資や民間投資も多少動きだしたようで明るい兆しが伺えるものの、中小企業にとっては相変わらず不透明な状態に置かれたままで復調への確実な実感は伴っていない。

【鉄骨】基礎データである建築着工統計から推計する'12年4～'13年3月の鉄骨重量はトータル121,100ト（前年度実績110,100ト）で、対前年度比10.0%の増加であったが、'13年1～4月の鉄骨推計は27,000ト（前年実績32,300ト）と、16.4%の減となった。

一方、今後の需要の先行指標となる'13年1～5月の北海道機械工業会鉄骨部会道央支部が集計する鉄骨工事の共同積算数量は、速報数量トータル60,000ト（前年実績68,209ト）と、12.0%減少した。先行数値の減少は秋以降の出件が多少なりとも気がかりなところである。

地元のファブリケーターの間では、昨年発注の大型3物件（札幌三井JPビル・北海道新幹線函館車両基地、札幌競馬場）に加え、新幹線関連の車両基地や新函館・木古内両駅舎の加工が進んでいる。

このほか、本州首都圏の大型鉄骨物件をターゲットにした対応によって、道央や道南地区のH並びにMグレード・クラスは夏場ころまで工場はフル稼働状態。Hクラスの一部では、すでに年内一杯ラインが埋まっているようだ。十勝をはじめとした道東や道北地方では、全般的に盛り

上がりや欠き工場の稼働率や手持ち量に大きな格差が目立っている。物件受注が決定し納期対応しきれない地域がある反面、何とか稼働しているが繁忙地域の手伝い仕事が主体で、依然厳しい状態で推移している地域もありマチマチの様子である。

先行きの見通しは、道央圏での再開発事業や大型店舗、地方での食品加工工場、農業関連施設、大型物販店、物流施設の建設あるいは発注が、ほぼ確定しており、昨年度並みの12万～13万トンの製作量が継続されそうで好調な勢いを維持する見込み。また、道外案件も首都圏における大型物件の道内ファブへの流入も5万～6万トン程度が予想され、需要環境は昨年以上の高水準キープが期待されている。

鉄骨業界での最大、かつ緊急の課題は、鋼材の値上げの影響とコストプッシュによる赤字受注からの脱却が挙げられている。今のところ、この状況は徐々に解消されつつあり市況価格は徐々にあるが上昇傾向にある。ただ、各社の順調な山積状況の割に、そのテンポはスローである。

【橋梁】'12年度の鋼橋梁需要は、4,000トン弱で（前年度実績22,000トン）前年度の20%を下回る水準と惨憺たる結果に終わった。

今年度は、'12年度大型補正予算の計上もあり、総量で15,000～20,000トン規模へと大幅な拡大が予想されている。

しかし、ファブ兼業を含む鋼橋梁メーカーが期待していたゼロ国債・補正予算による発注展開は、予算成立の遅れから物の見事に大外れ。工場稼働に格差偏重はあるものの、全般的な工場運営は一段と深刻な度合いを増しており苦戦している。

この様な厳しい環境下、緊急経済対策による防災減災目的、あるいは老朽化に伴う鋼橋梁の新規発注や、耐震対策としての落橋防止装置などの早期発注が、より一層強く望まれている。

【切板】道内における切板の需要構造は、周知の通り建築関連や土木・橋梁向けが主体である。

鋼橋梁用については、前述のように非常に厳しい状況を余儀なくされている。

建築用は年初こそ、中小型鉄骨や太陽光発電の架台ガゼット・プレートを主体に短納期の小ロット多品種や小物、小単重、型物。さらに異型対応を中心とした手間暇の掛かる動きだった。

昨年下半年から動き出した著名物件とともに、物販店や物流施設に加え、首都圏や周辺都市の建築物件加工を手掛けたH・Mグレードファブの高い稼働に支えられ、シャープ各社は4月以降どうやら稼働運営が安定し夏場ころまでの高操業維持が可能となった。

素材の厚板は、メーカー値上げが出揃い最初に値上がりした材料が入荷し始めており、切板価格への早期転嫁が急がれている。だが、高炉メーカーの鋼材価格の値上げは思うように浸透せず、スポットや店売りの一部に若干の転嫁値上げは見られるが、建築プロジェクトは旧価格の物件が暫く続くことから、仕事量の見合いからすると上昇の動きは鈍い。

仕事量の急激な増加と相まって人手不足と人件費上昇。そして、鋼材価格の値上がりなどにより、工事発注や進捗に遅延が生じ、下期に集中ダンゴ状態が懸念される。

緊急経済対策による公共投資に加え震災復興の本格化。さらに全国主要都市での大型再開発の着工ラッシュが目白押し。道内でも、昨年からの引き続き著名物件や新幹線の新駅舎、商業や物流施設、農業関連施設などの着工が期待されており、選別受注の条件が整ってきた。

需要の回復は、切板価格の是正や収益の改善に向け絶好の機会到来である。千載一隅。今年こそ「鉄鋼メーカーの適正価格是正への取り組み」と、「アベノミクス効果」を信じ、前述の2大要諦に対し業界一丸となって全力投球。不退転の気概で邁進するべきと思われる。

(玉造(株)・西村 孝治)

## 東 北

### 復興が実感できる年に

震災復興・防災対策・経済再生のための東北地整 2013 年度当初予算は前年比 11%増の総額 7437 億円が計上された。

これによる河川・海岸堤防の復旧整備、港湾等のインフラ整備はさらに加速するものと思われ、土木製品の需要も引き続き旺盛で堅調である。

生コンなどの建設資材不足も対策連絡会の調整やミキサ一船の活用など取組は進行している。

また被災地までの復興支援道路として、三陸自動車道の延長・拡幅工事等による橋梁の発注が期待され、大型水門設置も年度内には具体的な動きがあると思われ、復興が実感出来る年にと、官民ともに東北地区の需要動向を注視している。

とはいうものの建築鉄骨においては、日常での荷動き、見積案件数などは依然として低調で、稼働率は相変わらず低レベル。

新年度になった今も大きな需要変化はなく、特に日本海側の仕事量が少なく県外あるいは関東圏へ仕事確保を求める傾向が強い。

シャ-各社は、60~70%の稼働率のなか、我慢と工夫を凝らし、忙しさを実感出来るその時まで、日々凌いでいる現状です。

(J F E 鋼材東北・大柴宏和)

## 東京

### 建産機、少し好転も先行き不安

分野及び加工対象機種により受注状況にバラツキはあるが、全体感として好転している分野が前回報告時（3月）からみると漸増しているようである。一方で、増産の背景が排ガス規制や消費税増税前の駆け込みで、いわゆる需要の前倒しの要素が多いだけに、その後の反動減やそれに加えて需要家の海外強化による空洞化を考えると、先行きには不安を抱えていると言える。

【建設機械】 4月の統計では前年比9ヶ月連続でのマイナス。 内需は全般的に堅調で

31.4%の大幅増となっているものの、外需は中国やその他新興国の不振が依然続いており、その影響で合計では△16.4%の落ち込みとなった。

・油圧ショベル 4月の国内の販売は被災地向けも販売増に寄与し前年比でプラスになってはいるが、輸出の落ち込みにより合計では△23.7%。 しかしながらこの統計資料の数字に反するが、この3月頃からは状況が一変している。 排ガス規制・消費税増税前の駆け込みと復興需要の本格化により、足元ユーザー各社の中・小型機種をメインにした増産で関係シャーの加工量は急速に回復してきている。 概ね3～4割増。

・建設用クレーン ラフテッククレーンは、駆け込み需要と復興需要に加えて公共工事の増加期待から販売が堅調。 また円高解消による輸出回復現象も見られ、需要家は強気の増産計画を立て、リーマン前の台数を超えるものとなっている。

クレーンは長期に亘る低迷の後、ようやく足元の生産は回復基調。 国内はラフテッククレーンと同様の理由で、また海外向けは円安による北米を主とする輸出の回復で需要家の生産レベルも漸増している。 さらに一部ではあるが海外調達部材が国内回帰している事もあり関係シャーの加工は増加傾向にある模様。

【鉱山機械】 前回の報告内容とほとんど変化なし。 資源メジャーの投資激減に代表されるように鉱山開発の縮小・延期等から、鉱山機械は販売低迷が続いており、ユーザーの生産調整はまだまだ長期化しそうである。 機種としては大型・超大型ショベルや鉱山用ダンプ、大型トラクター等が該当するが、昨年比△25%～△40%と一律ではないものの大幅に落ち込んでいる。 重量物だけに関係シャーの加工量は激減し、対応に苦慮している。

【重電】 足元は新規案件の加工が一段落し、加工量は低位での推移となっている模様。今後

については火力発電関連が内外ともに増加傾向で、決定済や応札中の具体的案件が連なっておりムード的にかなり良くなっているといえる。しかしながら、これが関係シャーの加工に結び付くかと言えば疑問符なのが悲しいところ。国内において競争入札への移行や、コスト面から部材の海外調達、またメーカーの火力発電分野での事業統合等々の要因から、どこで製作するか不透明であり、受注確定まで安心できない状態が続きそうである。この円高解消で海外調達の一部でも国内回帰してくれるよう期待したいものである。

昇降機のエレベータは昨年比で足元約△10%程度。建築関連がこれから本格的に動き出す、エレベータ設置は最終工程となるため14年度以降での受注増に期待。

**【板金・鍛圧機械】** 工業会発表の4月受注実績は、前年比で5ヶ月振りにプラスとなり、前月比でも3ヶ月連続増加となっている。しかしながら、民間の設備投資はマイナスが続いており、統計上の増加もプレスの輸出増が寄与しているだけで「力強さを感じるまでには至ってない」(工業会)。自動車向け大型プレスだけは堅調で、長期に亘り工程が埋まっている一方、中・小型の汎用プレスや板金機械は、受注そのものが不振であることや海外生産の比率向上等から、関係シャーの先行きの加工量確保については悲観的な見方が多い。

**【フォークリフト】** この業界は、1月～4月の生産・販売とも昨年比で△10%程度落ち込み、先行きも低調が続くと見ていたものの、一部需要家に限定される現象ではあるが、6月以降3ヶ月程の期間で加工量がプラスに転じるようである。年度を通してみるとほぼ前年並み、期初計画からも微増になると見られているものの、上方修正の要因は定かでは無いために、底を打ったと判断するまでには至らない状況である。

**【ダンプ・トレー】** 10トクラスのダンプは各メーカーともフル操業が続いている。排ガス規制前の駆け込みと被災地向けの需要から長期に亘り堅調さを持続している。また重機積載用トレーラーも絶好調で、この部門における加工量は確実に確保できそう。また北米向けの30ト・40トダンプの生産が急回復しているが、これは排ガス規制前の作りだめが背景だけに、先行きの反動減が不安である。

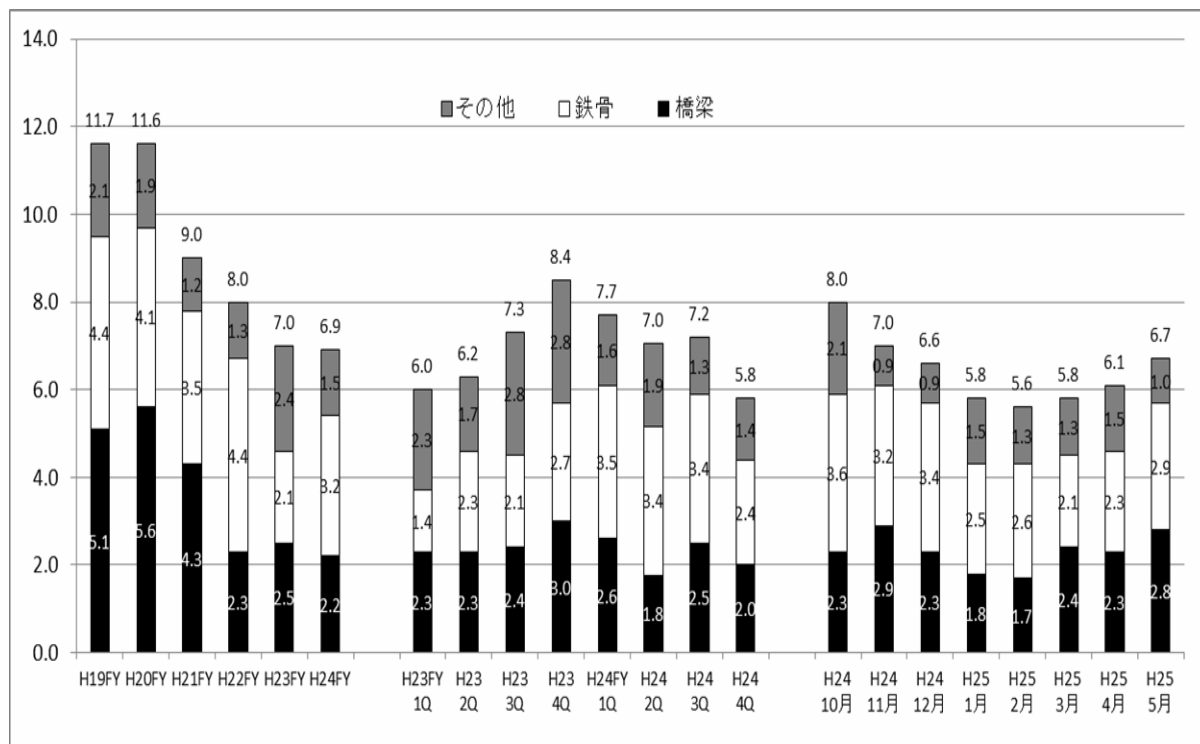
**【産機 店売り】** 全般に受注量の低迷、荷動きの停滞感が解消されない状態が続いている。結果、需要家に対する価格改定は難航し、一方素材は値上げ対象材の入荷が始まっており、板挟み状態という困難な局面はすでに本格化している。店売りのマーケットの縮小が現実化している状況ではあるが、円安効果や公共投資増等々よる夏場以降の好転期待ムードもあり、一日も早い末端実需の回復を願うばかりである。

(ニューエイジ・池田啓志)

東京

建材分野、順次増加基調に

1. 規格建材部会加工量推移（千ト/月）



2. これまでの実績

【全体】 主力の建材分野は、橋梁、鉄骨ともにファブ稼働は低迷。昨年度4/四期切断量は、過去最低レベルにて推移。

新年度に入り、橋梁の昨年度案件の製作開始や鉄骨では一部の大型再開発案件の着工により、加工量は増基調に転じているが、その規模は未だ低位。

【橋梁】 昨年度橋梁入札量は、赤字国債発行遅れや年末の衆議院選挙等あり、過去最低レベルの230千トに留まる。

また、入開札されたものの設計工期を要するNEXCO物件も多く（H24FY：80千ト、H24下期：36千ト）、当地区橋梁ファブの稼働は低位に推移したため、当部会メンバーの切断量も、極めて低レベルにて推移。

【鉄骨】 物流倉庫やショッピングモールなどの物件を中心に鉄骨需要は旺盛であり、足元H

グレード以下のファブの稼働は、堅調の様子だが、首都圏超高層案件の遅れ影響が残る  
Sグレードファブの稼働は、一部に動意が見られるものの未だ低迷。

従って、形鋼やコラム関連需要は伸びているものの、切板需要の伸長は限定的。

### 3. 今後の動向

【全体】 橋梁・鉄骨分野のファブ稼働は、昨年度開札案件や昨年度からの遅れ物件の加工が開始されることから逐次増加する見通しであり、シャー加工量も同様に増加基調に転ずる見込み。

2/四期以降の橋梁開札に不透明な部分はあるが、下期以降も鉄骨分野向け中心にシャー加工量は堅調に推移することを期待。

【橋梁】 新年度入札量は、10数年ぶりの公共投資の増加や2月に成立した大型補正予算の繰り越しにより、昨年度を上回る見通し。しかし、開札ピッチは遅れ傾向にあり、入札にドライブがかかるには未だ時間を要する見込み。

シャー加工量は、当地区橋梁ファブの昨年度後半開札案件の製作が開始されていることから、増加に転じており、1/四期は、この基調が継続する見通し。2/四期以降の継続に向け、開札ドライブに期待。

参考1<全国橋梁入札量推移(一部推定) 単位:千ト>

|       | H19FY | H20FY | H21FY | H22FY | H23FY |     | H24FY |     | H25FY |     |     |     |       |    |    |     |     |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-----|-----|-------|----|----|-----|-----|
|       |       |       |       |       | 上期    | 下期  | 上期    | 下期  | 上期    |     | 下期  |     | H25FY |    |    |     |     |
|       |       |       |       |       |       |     |       |     | 1/四   | 2/四 | 3/四 | 4/四 |       |    |    |     |     |
| 橋梁入札量 | 417   | 324   | 305   | 283   | 96    | 171 | 267   | 101 | 129   | 230 | 28  | 89  | 117   | 47 | 86 | 133 | 250 |

【鉄骨】 昨年度から遅れていた首都圏大型再開発案件が漸く着工され始め、Sグレードファブの山積みは、逐次増加する見込み。(当面の繁忙期は、下期からであるが、「一部2/四期からの前倒し」の声も) また、同案件は物件数も多く、来年度まで継続した高稼働が期待される。

シャー加工量もSグレードファブの山積みにも比例して増加する見込みであり、下期に向かい順次増加する予定。

参考2<全国鉄骨需要量推移(一部推定) 単位:万ト>

|       | H19FY | H20FY | H21FY | H22FY | H23FY |     | H24FY |     | H25FY |     |     |     |       |     |    |     |     |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-----|-----|-------|-----|----|-----|-----|
|       |       |       |       |       | 上期    | 下期  | 上期    | 下期  | 上期    |     | 下期  |     | H25FY |     |    |     |     |
|       |       |       |       |       |       |     |       |     | 1/四   | 2/四 | 3/四 | 4/四 |       |     |    |     |     |
| 鉄骨需要量 | 642   | 589   | 391   | 418   | 224   | 207 | 431   | 238 | 223   | 461 | 129 | 137 | 266   | 118 | 99 | 217 | 483 |

(富士鉄鋼センター・三浦潔司)



## 東京

### 一般シャーの荷動きは30～40%減

アベノミクス効果により為替も円安が進み100円台を付け、株価は15,000円まで急進した後、益だし含めて調整が入り13,500円絡みとなっているが、目指す3本の矢もハッキリと示され、後は実行あるのみとなっており、今までの沈滞ムードはかなり払拭されたのは間違いない所である。

去る5月15日、当工業組合全国理事であり、この市場委員会のメンバーでもありました角田さんが逝去されました。何分にも急な事でしたが、先日その後任も選任されました。後任委員は、本日の会合には都合が付きませんでしたので、私から6月3日に行われました東京支部の厚中板部会の模様について簡単に報告させていただきます。

まず、商社筋の話としては、概ね順調に回復しだしているが、中小下請けにはまだ十分な仕事量が廻っておらず、マダラ模様となっている。

また、材料でみると、各ミルともタイト感が強く、9月頃まで続くようであるが、7～9月原料価格が下落傾向にあり、需要量もそこまで押し上げるレベルには至っておらず、値上げが浸透するには小幅な動きの中、多少時間の掛かる作業となりそうである。

我々、シャー組員企業並びに浦安鐵鋼団地内企業においては、先々の話は別として、足元低操業が続いており、ここまで30%～40%減の状態が当たり前となっている所が多い。ゴールデンウィーク明けは更に動きが鈍くなってしまった。

材料販売は、店売り材のメーカー値上げから駆け込み的に荷動きが増加したが、4月以降はそれも止まってしまった、と言うような状況であります。以上一日会の報告とします。

また、今後の需要動向としては、先の山が高く期待できると言われ続けているが、新旧物件の端境がハッキリとしないことも問題視されており、ゼネコンが最安値受注した物件が消化不良となっているため、各ファブリーケーターは毒饅頭を掴ませられないよう戦々恐々としながら逃げ切ろうとしているとも聞こえてくる。(GC最後の手段は新規物件との抱き合わせ作戦???)

いずれにしても山の裾野も広く遠景の様相である。近未来への期待も薄い業界になっているように感じるが、とにかく今の状況から早く脱却して一息つかせて貰わないと、来るべき近未来にも辿り着く事が困難になりそうな気がしてならない。

(丸東興業・秦 弘志)

## 新潟

### ファブは高稼働

新潟地区の状況ですが、建設事業に関する予算も 2556 億盛り込まれ、前年比 142% となっており、低迷していた県内の公共工事の発注量は増加傾向にあります。

着工面積から算出する、H24 年度新潟県内の鉄骨発注量としても、8 万トンを超え、前年比 123% と増加、H25 年度 4 月としても、順調な滑り出しを見せており、関東圏からの物件受注も合わせ、県内大手ファブを中心に 9 月～10 月頃までの受注残を持ち、足元高稼働が続いています。

今後の県内物件に関しては、病院や学校関連、特老といったものが中心で、大型のプロジェクトが無いことに加え、鋼材の値上による様子見からか、ゼネコンの発注も一時的に停滞しております。鉄鋼メーカーの納期が掛かり始めていることにより、一部では秋口からの山済みを不安視する声も聞かれますが、総体的には、今年度も増加傾向にあるのではないのでしょうか。

その他の業種では、円安の影響からか、低迷していた産業機械や建設機械関連で若干の増加が見られ、製缶業者からの引合などの件数も増えております。また、車両関連は安定した数量で推移しており、店売り分野でも改善が見られるようになってきました。

建築需要に加え、産建機を中心とした店売り分野でも増加傾向にあることから、地場シヤ業各社も、少しずつではありますが稼働率が上昇しております。

鉄鋼メーカーの値上の中で、需要動向を見極め、採算性の改善に努めたいと思います。

(藤田金属・多村嘉人)

## 東海

### 薄日が差してきました。

最近株の乱高下などもあり、少々不安な点も出てきたアベノミックスですが、円安傾向は続いており、少しずつですが、薄日も差してきました。

3～5 月の産機向け店売りシヤーは、2～3 月に値上げ前の仮需が出たりした影響もありますが、総じて売上は低迷して、中でも 5 月が悪く、前月対比や前年度対比で 10% 以上売り上げが落ちている会社もありました。

しかし 5 月後半から、以前から国内に戻り始めた金型の引き合いなども、一層多くなり 6～7 月にはある程度出そうですし、一時的に止まっていた土木の仕事や、トンネルの補修仕事、又、自動車生産が上がり、円安の関係で、国内での生産も少しずつ出てくるということで、自動車関

係の設備も夏以降具体化しそうな話も多く出てきました。

後は、高炉材も少しずつタイトになってきているので、環境を整え適正工賃が頂けるように、お客様と粘り強く話し合いをしながらはけません。

一方ヒモ付きシャーも少しずつ変化が出てきました。

#### 建機 リフト

前回、前年度の生産より、今年度は4%アップ予定だけど、下振れの可能性ありと報告しましたが、円安などの影響を受け輸出もある程度好調で、逆に良い方に上ブレして、この6月からの3ヶ月もこの状態が続くため、ピーク時の生産をキープしています。

#### クレーン シャベル

鉱山用などの大型建機や中型建機は相変わらず低迷したままですが、国内向けの瓦礫を壊す破碎機や杭打ち機、小型シャベルなどは好調です。

#### トラック

前年度まで好調だったトラックは、予定では、余り落ちないはずでしたが、今年度になり中国への輸出が低迷し始めた為、ピーク時の生産から2割ダウンしました。暫くはこのままいくと思われそうですが、海外生産移管の話が具体化しており、それに係わる車種に関しては、大幅に生産ダウンするかも知れません。

#### 鉄道車両

前回同様、国内向けの仕事がほとんどなくなり、少なくなった海外向けの仕事をこなしています。

この先海外向けが増えるかどうかは判らず、不透明です。

#### 産機 鍛圧プレス

前回今年度の生産計画は前年並みと報告しましたが、4月に入り政府からの補助金や消費税引き上げ前の設備投資により、国内需要が増して、生産が上がり4～5月は生産計画以上に好調でした。この先はまだ判りませんが、上ブレを期待しています。

#### その他工作機

前回同様低調で、輸出はアジアや北米が中心なもの変わりません。国内は震災で使えなくなった工作機の買い替えは出てきています。

ただ、海外生産は活発になっており、現地生産化は進んでいます。

**造船** **デッキクレーン**

円安の影響で海外高炉が国内造船メーカーに値段の改定を要求したりして、今まで使えなかった国内メーカーの材料が使えるようになったり、実際国内造船メーカーの競争力がアップして受注出来てきたので、まったくなかった造船の仕事が急激に戻ってきました。

それに伴い造船設備増強なども計画され、デッキクレーンも徐々に回復してくると期待されています。

**昇降機**

今年度の生産計画は前年度と変わりませんが、去年も今年も生産計画としては、ピーク時の生産計画の70%産ですし、来年も少しは増えそうですが、基本的には今年の生産計画と変わりません。その中で部品の軽量化や部品の海外生産が進んでおり、切板は益々少なくなっています。

アベノミックスが始まって半年経ち、少しずつ変化が出てきました。

中でも厚板を多く使う造船の仕事が回復してきたのが大きいと思われています。

金融円滑化法案の期限が終了して、廃業したユーザーも多々あると聞きますが、それを乗り越え、全体的に光が差ししてくることに期待をしています。

(鈴将鋼材・鈴木康司)

## 東 海

### 板挟みの中で苦慮

建材系シャーの状況はまだら模様が続いている。駅前の大型建築案件（鉄骨需要量15～20万ト）は少し進んできているが、切板需要が出てきた実感は全くない。ファブの手持ち量も差異があるが、Hグレードファブの山は高いまま持続している。

ユーザーへの価格転嫁は一向に進まず、逆に値引き要請を受けるケースがある。しかし在庫単価がアップしているので、板挟みの中で何とか価格転嫁を急がねばならない状況である。

シャーの稼働は80～90%程度。足元の在庫量は、概ね3.5カ月程度で推移している。

(中部鋼鉄・南 信年)

## 大 阪

### 夏以降の橋梁発注に期待

#### 1. 全般

##### (1) 需要

全体的に少ないことに変化無し。建機向けが堅調ではあるが、あふれるほどの仕事ではなく、広がりが無い。

シヤの工場稼働を埋める需要が無い。建築向けも中小案件は多少あるが、関西では大型案件なく仕事少ない。

##### (2) 一般店売

足元は非常に少ない。3～4月に単価上昇を見越した仮需的な仕事が入ったが、実態として仕事が少なく5月に入り最悪の状態。

#### 2. 需要部門別

##### (1) 橋梁

4月は入札延期が発生したが、5月にNEXCO関係、地整関係ともに入札・開札が順調に進んでいる。

今まで一部の大手FABが受注独占状態であったが、ここに来てその他専業FABも受注し出した。

この状況が続けば、前年度入札で未発注物件の手配と相まって、夏以降に物件発注が順次実施されると期待される。

##### (2) 鉄骨

大阪地区は、今後の大型案件少なく建築向け需要は期待できない。

地方や中小案件を集めていくしかない。関東、名古屋の物件を関西FABが加工することも期待されるが、前年度に決まった物件であり、単価は厳しいことが予想される。

鉄骨単価に改善の兆しとの声もあるが、FABいわく鋼材単価の上昇分しかゼネコンは認めない。

##### (3) 建機

足元は堅調に推移。上期中は安定している模様。

建機の排ガス規制の猶予期間終了、北米向け輸出、復興需要などが追い風となっている。

但し、下期については不透明との声が多い。海外生産が進んでいることも大きな懸念材料。

(4) 産機

産機・SPOTなどは、相変わらず少ない。小ロット・短納期対応。

店売り向けは、非常に少ない。

(日鉄住金神鋼シャーリング・浅野博之)

(株玉造・棚橋浩司)

## 九 州

### ようやく動き始めた建築案件

九州では依然として自動車の活動水準が高く、当初の生産計画120万台から132万台へ上方修正している。(H24年度実績は135万台)

その他では太陽光関連の投資は活発で、加工会社はフル生産となっている。

建材関連では一部建築金物で忙しい会社もあるが、5月まではさほど高い稼働状況とは言えない。

#### <建築>

今年度、期待されている建築案件もようやく6～7月頃から動き出し、建材系シャーの稼働は高くなる見通し。

ファブの仕事が一杯なため、ゼネコンが入札を見送った話が聞こえる程、山が高くなるファブもある。

とはいえ、絶え間なく仕事がある訳ではなく、仕事の無い期間は関東・関西の仕事を取りながら山を埋めている。

然しながら、全般的には来年春頃まで比較的仕事がある状況が続く見通し。

#### <土木>

公共工事の受注額は、13ヶ月連続の増加となっているが、鉄(切板)を使う工事は少ない。

2013年、九州ファブは大型の橋梁案件を受注しておらず中小型案件のみとなっている。

中小規模の橋梁案件や歩道橋案件や補修工事案件で稼働を埋めている状況である。

#### <産業機械>

円安効果により一部の輸出型企業はコンスタントな受注をしており、また、海外生産していたものが国内生産に戻ったとの話も聞かれる。

だが、一方でユーザーの海外展開に合わせる形で海外シフトの手を緩めない会社もあり様々である。

小型建機メーカーは対前年比+20%の生産計画であったが、4～5月はそれを上回る生産状況となっている。

<造船>

2014年問題を控え正念場の造船業界ではあるが、ギリシャ等の投機筋の底値買いから1～3月に受注が増加した。

但し、円安のためドル建ての船価を下げる要求があり、採算上厳しい状況は変わらない。造船各社の受注状況、線表にはバラツキが大きく、業界全体が潤うにはもうしばらく時間を要する。

<シャー業者>

総じて言えば、建材系シャーは夏場頃から忙しくなるが、産機系シャーは不透明感があり、先が読みにくい状況である。

6/5、シャーリング工業組合 九州支部の報告（出席：14社）

・工場稼働

|       |   |     |
|-------|---|-----|
| 70～80 | % | 1社  |
| 80～89 | % | 4   |
| 90以上  | % | 7   |
| 合計    |   | 12社 |

（豊鋼材工業・橋本勝美）

九州

建築需要は下期以降増加

<建築>

足元1Qは、大小問わず各ファブとも低稼働に苦しんでいる。

ゼネコン・商社ともに指し値が厳しく、切板価格も上昇の兆しなし。

下期以降は、病院や庁舎など公的物件に加えて物流倉庫など、需要は増加傾向にある。

しかしながら、東高西低の需要マップは変わらず、大手Hグレードファブは、首都圏需要の依存度が高い。

<土木>

九州地方整備局は、H25年度の概算を発表した。

予算総額は、前年度比19.8%増の8,304億円で、直轄事業は2,542億円、補助事業が5,762億円となった

防災対策の河川改修や砂防事業では、鋼矢板やスリットダムが見込まれ、東九州道・佐伯～蒲江間に113億円の予算を計上し、トンネルや橋梁工事を推進する模様。

<建機・産機>

円安効果は感じられず、今少し時間が必要か？

建機においては、排ガス規制対策や東日本震災復興需要があり、底固いものはある。

<造船>

円安効果で受注が増えてきた。まだバラツキがあるが、年内は埋まった造船所も見受けられる。最悪期は脱した感があるものの、当地区では内製化が進み切板市況に影響なし。

(トキワスチール・岡 哲朗)

### 3. 高木理事長挨拶

「四半期に1度、本会で全国各支部の代表委員から生の声をうかがうことができ、その重要性を感じており、改めて御礼申し上げます。

アベノミクス効果に期待しており、いつ出るかいつ出るかと待ち遠しい気持ちでいっぱいである。それにしても1～3月期のシャー状況は最悪でひどかったが、新年度入り後は、ジワリと需要が出て来たような感じがする。シャー組合の統計をみても、4月の出荷が増加している。しかし在庫が増え、在庫率が上昇している。出荷を上回る仕入れの増加が原因である。これ以上需給が緩まないよう、慎重な仕入れに心掛けてほしい。

全体の厚板需給に影響するマクロ指標をいくつか紹介する。新造船受注量は、世界計で24年度は800万G/Tだったが、今年度は3～4月計で2000万G/Tに達している(内訳は日本500万G/T、中国800万G/T、韓国700万G/T)。手持ち工事量は2600万G/t。また、造船向け厚中板出荷量は、20～22年度平均で500万ト、23年度430万ト、24年度330万トと減少。25年度は当初予測で280万トと見込まれていたが、足元の予想は310万トまで上方修正されている。油圧ショベル生産は、企業毎に異なるが、年初予想の2200台から5月時点の計画で2700台まで増やしているメーカーもある。

橋梁生産は、23年度27万ト、24年度23万ト、25年度見込は25万ト(新橋分+修繕補強分)。これらの発注主別の構成比をみると、23年度：国交省40%、NEXCO15%、24年度：35%、30%。25年度：50%、40%と、NEXCOの比率が年々高まっている。国交省案件は設計図面付き発注だが、NEXCO案件は設計からスタートするため、その分着工が遅れる。全体的にみると、設計作業が間に合わず、着工時期がズレ込んでしまう状況である。

鉄骨需要量は、24年度460万ト、25年度予想は480万ト(上期266万ト、下期217万ト)。このうち厚板使用量は、24年度102万ト、25年度110万ト(いずれもコラム15万トを含む)。

最後に、いま政府が公募している設備投資関係補助金(中小企業向け資金2000億円)を有効活用する方向で検討し、申請してほしい。」



(参考) ≡ 出席者 ≡ (順不同敬称略)

委員長・ 酒匂 (京浜産業)  
ゲスト・ 高木 (理事長/富士鉄鋼センター)  
ゲスト・ 笹田 (理事総務委員長/J F E 鋼材)  
北海道・ 西村 (玉造(株))  
東北・ 大柴 (J F E 鋼材)  
東京・ 池田 (ニューエイジ)、  
三浦 (富士鉄鋼センター)  
秦 (丸東興業)  
新潟 多村 (藤田金属)  
東海・ 鈴木 (鈴将鋼材)  
南 (中部鋼板)  
大阪・ 浅野 (日鐵住金神鋼シャーリング)  
棚橋 (株玉造)  
齋藤 (ダイコースチール/ゲスト)  
今井 (三泉シャー/ゲスト)  
佐々木 (日鐵住金神鋼シャーリング)  
九州・ 橋本 (豊鋼材工業)  
岡 (トキワスチール)  
事務局・ 柘野

#### 4. 次回の開催日時・場所

第158回市場委員会

平成25年9月6日(金) 12時 名古屋

以上